



水の文字が刻まれた地名の謎解き

動機

わたしの住むひたちなか市は、海と川に囲まれているすてきな街です。
「町名にさんずいがついているから水害が多い地域なのではないか？」という祖母からの一言に注目して、去年「水に関する漢字とひたちなか市の地名の関係」を調べました。調査は、現地の地形や現在の地図から調べましたが、関係性が分からない地名が多く残ってしまいました。しかし、水に関する漢字が使われている地名は、海や川に何かしらの関係性があると思っています。そこで今回は、古い地図や市史・市の合併に関する資料をもとに、再調査をしました。

水に関する漢字が使われている地名は、水に関する地形なのか！大調査です！

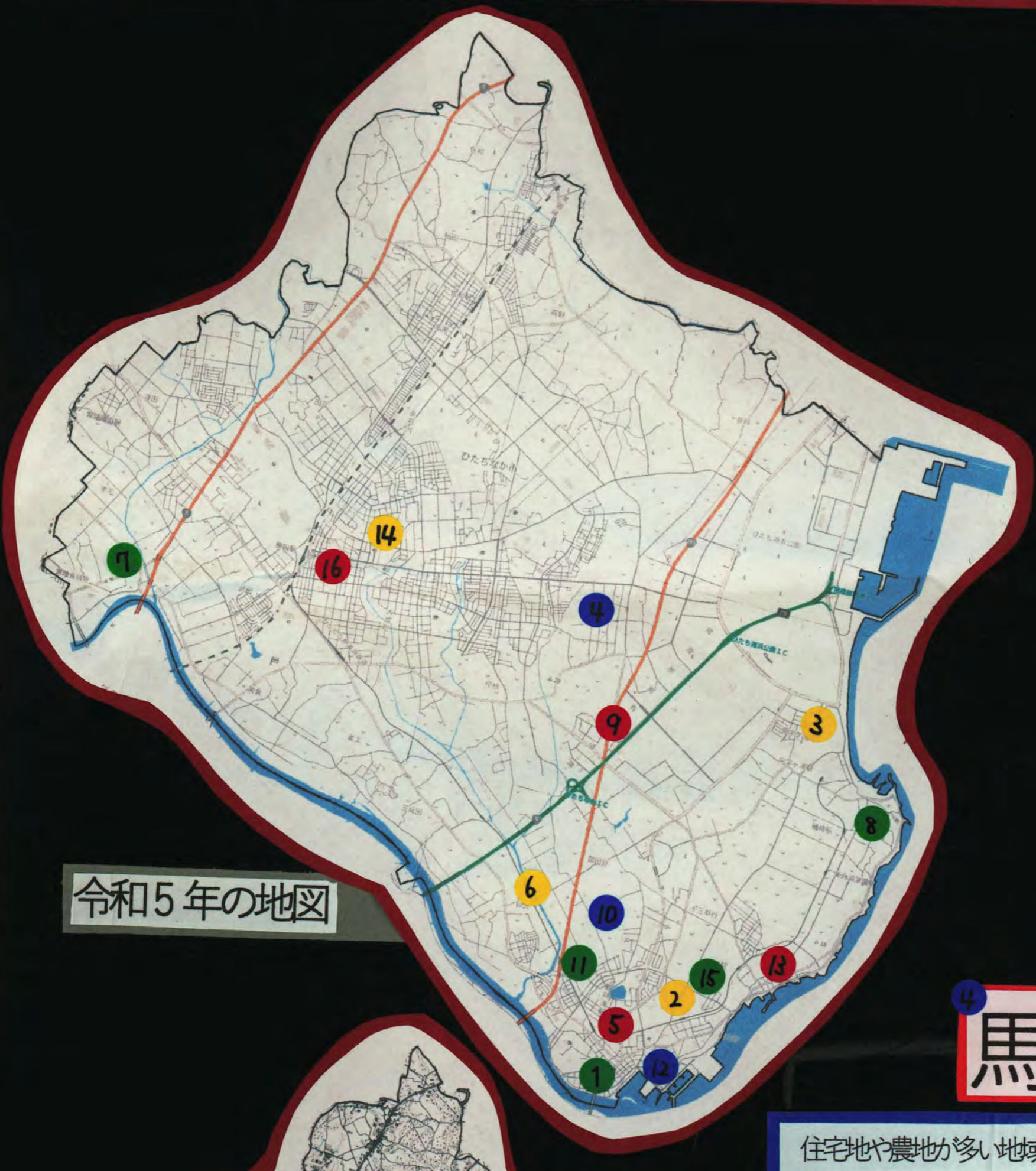
目的

わたしはこの調査を通して、防災の意識を高めるために、自分が住んでいる地域を知るきっかけになるといなと思っています。台風やゲリラ豪雨など、いつ身近で起こってもおかしくはないからです。

また、ひたちなか市にもっと興味を持ってもらいたいです。古い地図や古い本のデータなどをもとに調査をしていくので、いろいろな歴史やおもしろい伝説・不思議なことなどを知ってもらえるのではないかと思います。

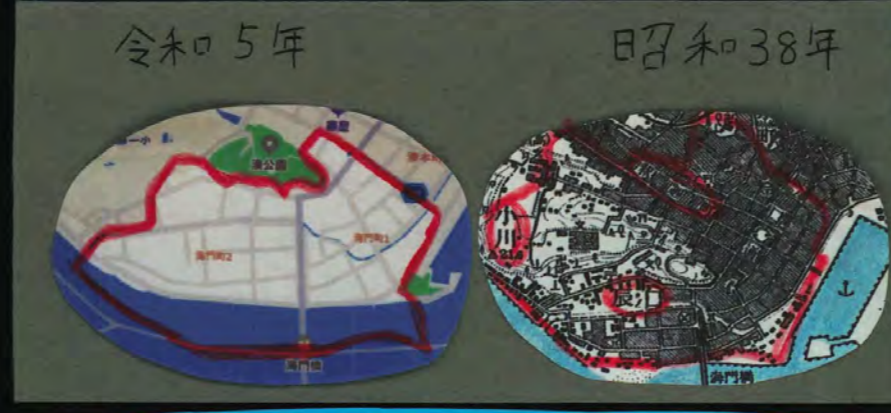
調査内容

- 水に関する漢字・さんずいのかの漢字がつく地名の、川や海の有無・地名の由来を調査。
- 「田」の漢字がつく地名は、現在田んぼがあるのかを調査。



海門町

海に面した地域。第一次住居表示のときにつけられた新名。大洗町とひたちなか市をつなぐ海門橋からつけられた。御殿町・堀1外・辰ノ口・小川一丁目が合併しており、旧名がすべてなくなってしまう地域といえる。



海に面して、海に橋がかかっていることから、地名と水は関係しているといえる。

浅井内

殿上駅前の住宅街。天保13年の文書によると、島地であると記載あり。また、南側に念仏台ありとあるので、念仏行者の伝説などからつけられた可能性もあり？

過去に火田があったことから、今も昔も水に関係するものはなかったのではないかと考えた。

柳沢

中丸川地域の真ん中を走り、水田地帯と住宅地に分けている。柳が多く生じているとは言えない、中丸川はともやみに見えるので、沢というにはおぼろしい。

地帯の真ん中を中丸川が走っている。さらに水田地帯もある。地名と水は関係しているといえる。

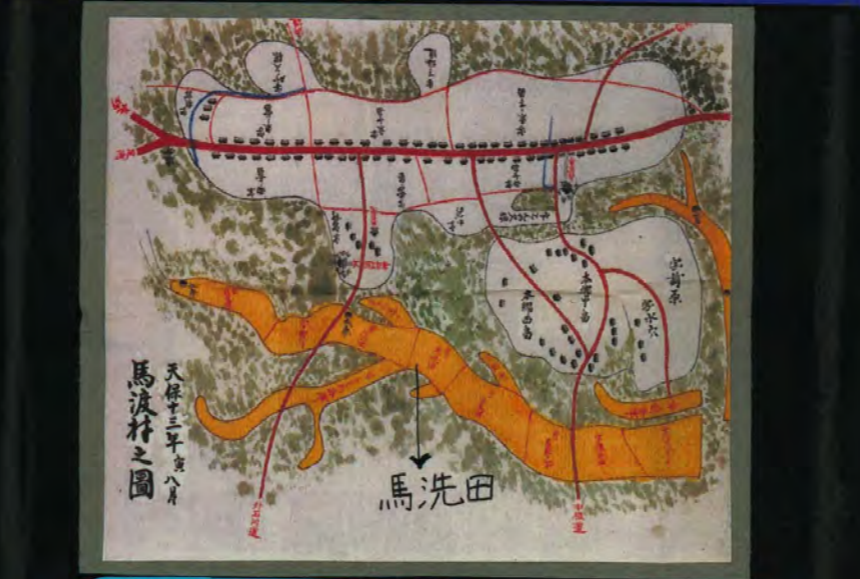
阿字ヶ浦町

海水浴場やひたち海浜公園がある地域。旧前浜町。1925年に海水浴場を開き、大正1928年に海水浴場の名前を阿字ヶ浦に変更する。海水浴場の効果で、周辺地域も阿字ヶ浦と呼ばれるようになり、1957年前浜町の一部を阿字ヶ浦町に変更している。名前の由来はアジカが多く獲れる・阿字石の存在など、諸説あった。

名前の由来にアジカが79ヶ獲れるなど海に関する由来があり、海水浴場があったりすることから地名と水は関係しているといえる。

馬渡

住宅地や農地が多い地域。古い地図を見ると、昭和後期ごろから本郷1が定まっているが、現在は多くが雨水幹線となっている。天保13年の木造図によると、木造街道・湊街道が横切っていたため宿場集落として栄えていたよう。地名の由来には、宿場として商人の荷物が多く運ばれたため、馬がたくさん道を渡っていった馬渡という説。本郷1から出来た谷車に、集まった馬を洗う場があり「馬洗田」ウマアラタと呼ばれていたものがなまって馬渡となった説など。



馬を洗ったり、昔は本郷川があたりなどしているため地名と水は関係しているといえる。

洞下町

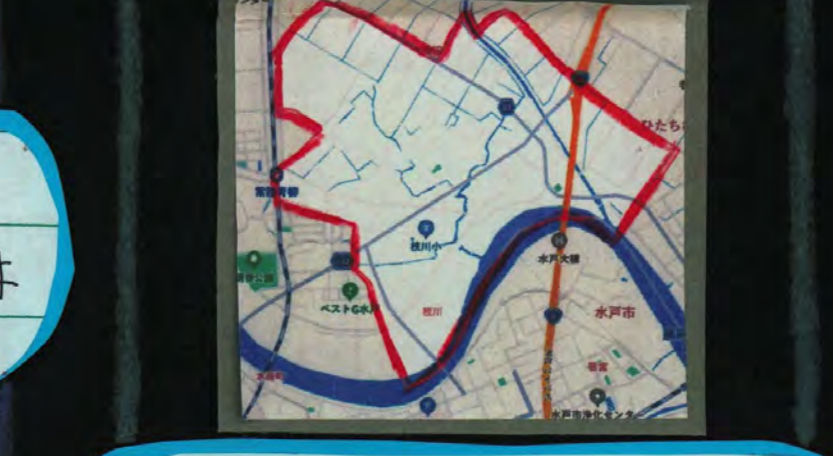
那珂湊駅前の住宅街。第二次住居表示のときに、住民の要望があったとの記録あり。北側に名平川という溜池のそばにあることからつけられたと推測できる。



名平洞から地名がついたと推測できるため、地名と水は関係しているといえる。

枝川

那珂川と早戸川に面した地域。多くの支流も流れている。地図から、川が支流が枝状に流れていることが分かる。また、水田も多くある。特殊な地形から、水害が比較的多い地域でもある。



那珂川と早戸川に面して、さらに79ヶの支流も流れていることから、地名と水は関係しているといえる。

磯崎町

海に面している地域。旧磯崎町。平磯から続く岩礁は白亜紀の天然記念物。すべての岩礁には名前がつけられている。磯崎神社は大洗磯崎神社と対峙するように鎮座している。磯崎という地名は、磯(イソサキ)の古代地名からの遺称である。



海に面していることから地名と水は関係しているといえる。

雨沢谷津

現在畑と民家あり。「日本姓氏語源辞典」によると、(雨) 姓、雨沢谷津が由来とある。地名と水に由来しておらず、住んでいた人名からつけられたと推測できる。

人の名前から地名がついているので、地名と水は関係していないと思う。

堀川

八幡神社のある住宅街。天保13年の木造図によると、中丸川を堀川と記している。そのため堀川という地名がつけられたと思うが、中丸川からはかなり離れている。

川から離れたところから川の名前からつけられた地名なので、地名と水は関係しているといえる。

調査結果

今回の調査を通して、私は水に関する漢字が使われている地名の地域には、海や川やそれらに関するものが多いなと思いました。さらにその中でも、海に面していたり、港町があったりと海に関する地名が多い印象を受けました。地名の由来や土地の歴史を調べていった中で「ちちんぷいぷい」という言葉が前浜の伝説からできていたということが驚きでした。さらに堀川の話で、中丸川に名前があることを知らずに「堀川」と一部地域で根付いた呼び方が、今でも地名として残っているというのが面白いと思いました。今回調査した地名の由来以外にも、「十三奉行」の由来や、「ダイダラボウの伝説」など、知らないことをたくさん知ることができました。

また、今回は図書館にあった本を中心に調べていきましたが、古い本には「持ち出し制限」がかかっている貴重な本が多く、地図などのコピーが取れず、作品に載せる資料が少なくなりましたのが少し残念でした。

今回、水に関する漢字が使われている地名の地域には、水に関するものがあるのかという疑問を解決していく上で、自分の納得のいくまで地名との関係性を調べたことや、知らなかった地域の歴史や伝説などが分かってとって楽しく調査ができました。

前浜

旧馬渡村と湊村の一部。現在残っている地域はとて狭い。地形「千々乱風」という伝説があり、海沿いの大塚村・二ツ村・青塚村に75日間も強風が吹き続け、集落が壊滅してしまっただけでなく、居住地を南下した大塚村の人々が移住した先を、前浜と呼ぶようになったよう。千々乱風の伝説は「ちちんぷいぷい」の語源であるといわれています。

伝説に「海沿いのこと」が出てきたりするため、地名と水は関係しているといえる。

平磯町

海に面している地域。旧平磯町。漁業の町で平磯漁港がある。平磯から磯崎にかけての岩礁は白亜紀の天然記念物となっている。幕末には、旅館や銭湯が多くあったよう。



海に面していることから地名と水は関係しているといえる。

湊地区

海に面している地域。古くから港町として栄えていた。商業も盛んだったため、商店街には古い建物が多く残っている。八潮祭りや海上花火があり、いまも昔もとても栄えていることが分かる。

海に面して、港町もある。地名と水は関係しているといえる。

東石川

住宅地が多く、近年人口の増加が著しい地域。旧外野村・大崎村・外石川村が合併してできた新名。古い地図では中丸川の支流が伸びているようだが、現在雨水幹線となっている。現在中丸川の上流での急激な都市化がすすんで、大雨の時に雨を貯めておく調整池を建設中。

中丸川の支流が流れている。水害への対策がしがりやなので、地名と水は関係しているといえる。

石川町

前浜の大型商業施設や病院、マンションなどがある地域。付帯の中丸川の上流部があるが、現在川が流れていない。旧東石川町の地域で合併が繰り返されている地域なのでもしかしたら古くは川が流れていた地域だったのかもしれない。古い地図や市史からは判断できなかったが、川に由来した地名といえる。

川に由来していた地域といえることから、地名と水は関係しているといえる。

沢メキ

海に近い地域。那珂湊水産加工団地となっていて、工場が多く立ち並ぶ。地名は「東側を流れて落ちるさわざわの水音の形容詞」由来と書かれている。

水の音からとって地名をつけていることから、地名と水は関係しているといえる。

[田]のつく地域に田んぼはあるのか？

稲田	○	勝田町	×
武田	○	田中後	×
田彦	○	田宮原	×
津田	○	和田町	×
部田野	○		
三反田	○		
美田多町	○		

田んぼが消滅していることが古い地図から分かる！

田んぼが消滅していることが古い地図から分かる！